

わんちゃん、ねこちゃんの健康について、獣医さんから
専門的にお話しいたします！

わんにゃの健康最前線

🐾「皆さまの質問に答えます
～わんにゃんマーケットで多かった質問より～」



京都中央動物病院
獣医師

かすかべ みほ
春日部 美穂 先生

前回に引き続き、6/22(土)に行われたわかさ生活プレゼンツ「わんにゃんマーケット 2019 in 岡崎公園」のわんにゃ相談コーナーで多かった質問をご紹介します。

まずは、歯や喉が痛いなどで食べたいのに食べられない場合や、感染症・胃腸疾患・肝不全・腎不全など重い病気で食べない場合もありますので一度病院へご相談されることをおすすめします。また子犬の場合は、食欲不振が続くと低血糖で危険な

Q.「ドッグフードを
あまり食べません」



状態になりうるので早急に動物病院を受診してください。

特に病気でなかった場合、多くの原因は、普段から味付けの濃いおやつや人間の食事をお裾分けしてもらって食べており、「ドッグフードを食べなければ飼い主さんが美味しい食べ物を出してくれる」という経験から、「お腹がすいているのに我慢して食べないのだ」と思われます。この状態を改善するために、おやつやお裾分けを全てやめる（これが一番難しく、そして一番大事！）、運動をして空腹状態を作る、フードの粒サイズや味を変えてみる、食器や食事の場所を変えてみる、フードを詰められるオモチャを使って与え食事は楽しいと覚えてもらうなど工夫してみましよう。

おそらく始めは我慢比べになります。中にはお腹がすきすぎて胃酸を吐く子がいるかもしれませんが、最



初に健康診断をしていますので、元気があり吐くのが単回であればフードを数粒あげて胃酸を抑え、数粒でも食べた事をすかさず褒めてあげましょう。缶詰やフードにトッピングする際は、トッピングする種類や量、トッピング方法などを動物病院やしつけ教室に相談してもいいでしょう。

Q.「花火の音や雷などでパニックをおこします。慣れますか？」

大きな音がしたら人間でも誰しもビックリしますね。その音を何回も経験すると本来なら慣れるのですが、わんちゃんのなかには気質的に異常に恐怖を感じる子がいます。また社会化期(生後3〜12週齢)に音慣れがあまりできなかった子や、場合によっては、飼い主さんの対応が過剰反応でわんちゃんの恐怖心を助長している可能性があります。

今日は天気予報で雷が鳴りそう、花火大会が近くであるなどをリサーチして、避けられるなら聞こえない

所まで一緒にお出かけするのが簡単です。しかしながら夕立が来る夏場に毎日雷の鳴らない所へおでかけは非現実的かもしれないですね。そこで何とか…まずは恐怖から隠れられるスペース(クレートでOK)を準備してあげましょう。



同時に飼い主さんの対応を変えてみましょう。一緒になって怖がったり、怖くないよとなだめたり叱ったりすることで、わんちゃんはまだ怖いことだと認識し悪化していきます。冷静な態度を心がけてください。窓やシャッターを閉めて雷や花火の音を遠ざけ、テレビのボリュームを上げるとか楽しい音楽をかけてみましょう。

う。できそうなら一緒に遊んだりおやつをあげたりするのもいいですね。

少し時間はかかりますが、音に対して『系統的脱感作および拮抗条件付け』というトレーニングを行うと、音慣れしてくれる場合があります。お近くのしつけ教室にご相談してみてください。そのトレーニング中も極力音を避ける必要があります。また先に述べたように気質(個体差)があり、すべての子がうまくいくわけではありません。

動物病院では行動療法に併用して薬物療法を行う事があります。犬の分離不安薬だったり、不安レベルを下げるフェロモン療法だったり、L-テアニンやミルクペプチドなどのサプリメントを症状や反応に応じて処方してもらうといいでしょう。ボディーラップやサンダージャケットなど、体に一定の圧をかけて巻くことで安心感が得られる商品もあります。

すべてを行なっても怖いものは怖いのですが、少しでも恐怖を取り除く努力をわんちゃんのためにやってあげても良いのではないのでしょうか。

〈お問い合わせ〉

京都中央動物病院

電話

075-821-1020

京都市下京区柿本町582-3
9:00~20:00